

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月9日

上場会社名 東和薬品株式会社

上場取引所 東

コード番号 4553 URL <http://www.towayakuhin.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 逸郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役企画本部長 (氏名) 西川 義明

TEL 06-6900-9101

四半期報告書提出予定日 平成21年11月11日

配当支払開始予定日

平成21年12月1日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	19,068	11.3	3,748	42.1	3,180	14.3	1,910	14.6
21年3月期第2四半期	17,140	—	2,637	—	2,780	—	1,667	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	111.28	—
21年3月期第2四半期	97.15	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	53,422	39,608	74.1	2,307.23
21年3月期	48,238	38,045	78.9	2,216.14

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 39,608百万円 21年3月期 38,045百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	22.50	—	22.50	45.00
22年3月期	—	22.50	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	22.50	45.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,300	9.3	7,600	18.6	7,100	6.2	4,260	12.8	248.15

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他(2)をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 17,172,000株 21年3月期 17,172,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 4,711株 21年3月期 4,556株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 17,167,344株 21年3月期第2四半期 17,167,584株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている連結業績予想に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）の国内経済は、4－6月期の実質GDP成長率が前年同期比プラスに転じるなど、昨年下半年から続いた急速な景気後退に下げ止まりの気配が感じられます。一方で、7月に過去最悪を更新した完全失業率も依然高い水準に止まっており、円高ドル安の進行により、輸出関連企業を中心として再び企業業績が悪化に転じる可能性もあります。

医療用医薬品業界では、今年度は薬価改定もなく、制度面での大きな環境変化はありませんでした。一方、来年度以降に向けて、薬価維持特例などの薬価制度改革議論がなされておりますが、民主党への政権交代の影響もあり、今後の議論の行方は不透明な状況にあります。後発医薬品の使用促進につきましても、「平成24年度までに、後発医薬品の数量シェアを30%（現状から倍増）以上にする」という政府目標に向けて、平成22年4月には、更なる推進策が実施されると思われませんが、具体的な議論は進んでいないのが現状です。

このような中、当社グループは、ジェネリック医薬品の需要拡大が見込まれる保険薬局、病院市場で取り引き軒数の拡大を目指した営業活動を展開しました。また、引き続き適正価格販売を維持し、血管拡張剤アムロジピンをはじめ、高脂血症治療剤マイバスタン、アレルギー性疾患治療剤エルピナン、消化性潰瘍用剤ファモスタジンなどの主力品目の販売拡大に努めました。特に、アムロジピン製剤のジェネリックとして当社のみがOD錠（水なしで服用できる口腔内崩壊錠）を発売したアムロジピンOD錠「トーワ」は、その製剤的優位性が市場で高く評価され、売上拡大に大きく寄与いたしました。

この結果、当第2四半期の当社グループの売上高は、19,068百万円（前年同期比11.3%増）となり、営業利益は3,748百万円（同42.1%増）となりました。一方、平成21年3月末から8円2銭の円高になったことに伴い、445百万円のスワップ評価損を計上したことなどにより、経常利益は3,180百万円（同14.3%増）となり、第2四半期純利益は、1,910百万円（同14.6%増）となりました。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末における総資産は、53,422百万円となり、前連結会計年度末比5,183百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加であります。

負債につきましては、13,813百万円となり、前連結会計年度末比3,620百万円の増加となりました。その主な要因は、長期借入金の増加であります。

純資産につきましては、39,608百万円となり、前連結会計年度末比1,563百万円の増加となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加であります。

その結果、自己資本比率は74.1%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、4,508百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,082百万円の増加となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は3,068百万円の増加となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益3,158百万円等であり、主な減少要因は法人税等の支払額1,577百万円等であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は5,603百万円の減少となりました。主な要因は、定期預金の預入による支出4,000百万円、有形固定資産の取得による支出1,655百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は3,610百万円の増加となりました。主な要因は、長期借入れによる収入4,000百万円によるものです。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期の連結売上高は当初計画をわずかに上回る水準で推移しました。第3四半期以降につきましても、当初計画どおりの売上推移を見込んでおり、通期の売上高予想は第2四半期の当初計画からの上ぶれ分を修正いたしました。

一方、利益につきましては、為替相場において現在の円高水準が続くと見込み、第2四半期で計上したスワップ評価損を通期でも計上するという前提で、経常利益及び当期純利益を前回公表数値からそれぞれ下方修正しております。

なお、平成21年5月14日の決算短信で発表しました通期の連結業績予想との差異は以下の通りです。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 39,000	百万円 7,400	百万円 7,500	百万円 4,500	円 銭 262.12
今回修正予想 (B)	39,300	7,600	7,100	4,260	248.15
増減額 (B - A)	300	200	△400	△240	—
増減率 (%)	0.8	2.7	△5.3	△5.3	—
前期実績	35,966	6,408	6,682	3,777	220.02

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

簡便な会計処理

1. 固定資産の減価償却費の算定方法として定率法を採用している固定資産については、当連結会計期間に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。
2. 法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,184,946	2,912,744
受取手形及び売掛金	14,041,505	13,902,018
有価証券	323,368	512,641
商品及び製品	5,479,790	5,418,888
仕掛品	1,594,061	1,747,385
原材料及び貯蔵品	2,509,537	2,269,343
その他	1,331,561	1,687,815
貸倒引当金	△283,874	△40,446
流動資産合計	33,180,896	28,410,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,512,358	7,612,949
機械装置及び運搬具（純額）	2,118,794	2,271,700
土地	6,600,957	5,689,542
建設仮勘定	520,992	355,698
その他（純額）	427,587	469,812
有形固定資産合計	17,180,690	16,399,704
無形固定資産	270,323	229,655
投資その他の資産		
投資有価証券	2,019,041	2,296,120
その他	801,189	930,035
貸倒引当金	△29,570	△27,330
投資その他の資産合計	2,790,661	3,198,826
固定資産合計	20,241,675	19,828,186
資産合計	53,422,572	48,238,579

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,150,062	4,330,534
未払法人税等	1,376,801	1,698,566
引当金	29,100	58,200
その他	3,295,791	3,155,580
流動負債合計	8,851,755	9,242,881
固定負債		
長期借入金	4,000,000	—
引当金	193,749	152,045
その他	768,252	798,130
固定負債合計	4,962,001	950,175
負債合計	13,813,756	10,193,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,717,700	4,717,700
資本剰余金	7,870,735	7,870,735
利益剰余金	27,038,195	25,514,008
自己株式	△7,517	△9,646
株主資本合計	39,619,112	38,092,797
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,297	△47,275
評価・換算差額等合計	△10,297	△47,275
純資産合計	39,608,815	38,045,522
負債純資産合計	53,422,572	48,238,579

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	17,140,084	19,068,692
売上原価	8,876,860	9,290,270
売上総利益	8,263,224	9,778,422
販売費及び一般管理費	5,625,495	6,030,058
営業利益	2,637,728	3,748,363
営業外収益		
受取利息	33,693	8,921
受取配当金	1,465	1,972
有価証券売却益	165	—
有価証券償還益	7,267	—
技術指導料	—	31,127
スワップ評価益	142,670	—
その他	103,648	62,787
営業外収益合計	288,911	104,808
営業外費用		
支払利息	4,884	9,227
有価証券償還損	—	1,190
有価証券評価損	114,751	197,283
スワップ評価損	—	445,860
その他	26,025	19,597
営業外費用合計	145,661	673,158
経常利益	2,780,977	3,180,013
特別利益		
貸倒引当金戻入額	98,216	1,680
退職給付制度終了益	231,796	—
特別利益合計	330,012	1,680
特別損失		
固定資産処分損	6,122	2,770
たな卸資産評価損	10,135	—
投資有価証券評価損	201,740	20,549
工場閉鎖損失	91,194	—
特別損失合計	309,192	23,319
税金等調整前四半期純利益	2,801,798	3,158,373
法人税等	1,134,022	1,247,919
四半期純利益	1,667,775	1,910,454

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,801,798	3,158,373
減価償却費	875,378	832,939
工場閉鎖損失	25,366	—
のれん償却額	10,588	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△96,495	245,668
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△136,092	96,798
固定資産処分損益 (△は益)	6,122	2,770
たな卸資産評価損	10,135	—
受取利息及び受取配当金	△35,158	△10,893
支払利息	4,884	9,227
スワップ評価損益 (△は益)	△142,670	445,860
有価証券評価損益 (△は益)	316,491	217,832
有価証券売却損益 (△は益)	△165	—
有価証券償還損益 (△は益)	△7,267	1,190
売上債権の増減額 (△は増加)	△211,337	△141,744
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△567,270	△147,772
仕入債務の増減額 (△は減少)	△392,468	△180,472
その他	△255,497	112,282
小計	2,206,342	4,642,060
利息及び配当金の受取額	48,671	19,893
利息の支払額	△4,884	△15,877
法人税等の支払額	△1,000,607	△1,577,416
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,249,521	3,068,659
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△4,000,000
有形固定資産の取得による支出	△1,675,195	△1,655,017
投資有価証券の取得による支出	△50,000	—
投資有価証券の売却による収入	404,152	97,410
貸付金の回収による収入	18,000	30,000
その他	△90,415	△76,295
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,393,459	△5,603,902
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	4,000,000
配当金の支払額	△385,665	△388,947
自己株式の取得による支出	△483	△650
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386,148	3,610,401
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,602	7,769
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△501,483	1,082,928
現金及び現金同等物の期首残高	2,171,124	3,425,386
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,669,641	4,508,314

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

在外子会社、在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。